

サポート

No. 194

令和5年9月5日発行

県教育庁特別支援教育課指導チーム

「特別支援学校授業づくりプロジェクト」が始動

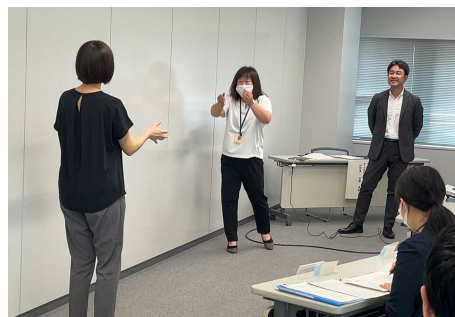
令和5年度から2年計画で「特別支援学校授業づくりプロジェクト」を実施します。

目 的	構成メンバー
教科等横断的な視点に立った資質・能力のうち、学習の基盤となる資質・能力の言語能力の育成を図るため、要となる 国語科 （知的障害教育の国語）を対象として、授業づくりの要点を明らかにするとともに、ロールモデルとなる人材を育成する。	- 以下の①及び②のいずれかに該当し、各校、校長から推薦された教諭 ①秋田県教職キャリア指標における「第3ステージ」もしくは「第4ステージ」に該当し、言語能力の育成のロールモデルとなる教諭。なお、今年度は中堅教諭等資質向上研修受講者は除く。 ②言語能力の育成のロールモデルとなる人材としての資質をもつ教諭。 ・教育専門監 ・特別支援教育課担当指導主事

6月14日（水）に行われた基礎研修会では、秋田大学教育文化学部附属小学校の京野 真樹 副校長から「身体と言葉をつなぐ 小学校国語科の授業づくり」と題して御講話をいただきました。即興遊びでのコミュニケーションの素地づくりやゲームを取り入れた読書活動、子どもの内に眠る言葉を引き出す学習活動等、御自身のこれまでの実践の中から、特別支援学校での授業づくりに明日から生かせる内容が紹介されました。参加者からは、「言葉一つ一つを大切にし、丁寧に教材研究を進めたい」「児童生徒が発する一言にある背景を探ることで、見方・考え方を働かせている姿が見えてくるとの話が印象深かった」などの感想が聞かれました。その後のグループ協議では、各校の国語科の年間指導計画を紹介し合いながら、個別の教育支援計画との関連、単元配列や使用する教材、同時期の他教科等を視点にして授業改善の糸口を見付けました。

今後は、2つのグループに分かれ、以下の計画で授業研究会を行います。

県北・県央グループ（授業提示12月14日）：授業者 県立比内支援学校 宮田 言枝 教諭
 県央・県南グループ（授業提示11月16日）：授業者 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 山田 賢子 教諭



架空のボールをトスし、重さ、大きさ、手触りなどを表現する活動の様子

授業研究会の一ヶ月前には、単元や本時の授業展開等を構想する授業検討会を行います。対象となった授業研究会をとおして、学習の基盤となる資質・能力の言語能力の育成を図る上での国語科における授業づくりの要点をまとめていきたいと考えます。

（特別支援教育課 指導主事 本多 由香）

事業紹介

令和5年度 高等学校特別支援教育コーディネーター連絡協議会

令和5年8月2日（水）

高等学校特別支援教育コーディネーター連絡協議会が、オンラインで開催されました。高等学校を対象とした本協議会は、今年度が初めての開催です。県内の高等学校から51名の特別支援教育コーディネーターが参加しました。

内容は、特別支援教育課による説明「特別支援教育コーディネーターの役割と期待されていること」、県立五城目高等学校と県立小坂高等学校による実践発表「特別支援教育の年間計画に基づく組織的な取組について」、少人数グループに分かれての協議「校内支援体制の現状と課題」でした。

実践発表では、校内支援体制の実際、学校の組織的な対応、関係機関とのつながりによる生徒への支援の充実、個別の指導計画の活用等、他校でも参考にしたい取組が紹介されました。

後半の協議は、教育専門監（特別支援教育）が進行を担当し、各校の特別支援教育の状況についての紹介や校内支援体制の充実に向けての情報交換を行いました。中学校から高等学校へのスムーズな引継ぎに向けての取組、特別支援教育コーディネーターの三者面談への参加、校内外における特別支援体制の周知等、今後コーディネーターとして参考にしたい内容が話題になりました。参加された方からは、他校の取組を知るよい機会だったと感想が寄せられています。参加された方には、今回得た情報やコーディネーター間のつながりを活用し、生徒一人一人が充実した学校生活を送ることができるよう各校の校内支援体制の機能強化に向け、一層尽力して下さることを期待しています。

（特別支援教育課 指導主事 長崎 雪子）



事業紹介

令和5年度 特別支援学校教育課程研修会

令和5年8月4日（金）

今年5月にスタートした、第四次秋田県特別支援教育総合整備計画を踏まえ、「社会に開かれた教育課程の実現と特色ある教育課程の展開」をテーマに講話、発表、グループ協議をオンラインで行いました。各特別支援学校の副校長又は教頭、学部主事、59名が参加したほか、研修内容の一部を他の教職員の研修として情報共有することができました。

「社会に開かれた教育課程の実現と特色ある教育活動の展開 ～地域の資源や教育力を生かした特色ある教育課程の編成と実施～」

【講 話】

- ・弘前大学大学院教育学研究科 教授 菊地 一文 氏

【発 表】

- ・県立比内支援学校たかのす校 副校長 福士 智子
- ・県立ゆり支援学校 教頭 時田 航



〈菊地 一文 教授〉

参加者からは、「他県の特別支援学校の実践紹介を通じて、主体的・対話的で深い学びについての理解が深まった」「中核となる活動から考えるカリキュラム・マネジメントについては、自校の実践と結びつけて考えることができた」「地域資源を活用した学習を展開するにあたっては、どのような資質・能力を育てたいかを明確にすることが重要だと改めて確認できた」などの感想が寄せられました。

（特別支援教育課 主任指導主事 小野 武則）